

市長の
市政運営について問う！



荻原 久雄
議員

問 本市の元気な仕事づくりについて、2期目の取り組み方針を聞きたい。

市長 市長に就任以来、まちづくりの土台は産業力であると捉え、中小企業への支援、空き店舗対策、農業の経営基盤強化、産業団地の造成に努めてきた。

今後とも、人が集い、ものが動き、資源が集まる「元気な仕事」の育成・創出を進め、人が生き生きと働くまち足利の実現に向け、全力で取り組んでいく。



◆太陽光発電設備

問 市は、太陽光発電設備の設置されている現状を把握しているのか聞きたい。

生活環境部長

本市における固定価格買取制度を利用した太陽光発電設備は、平成28年末現在で認定件数が4千483件、認定容量が15万112キロワット、このうち実際の稼働に当たる導入件数が3千343件、導入容量が8万7千914キロワットとなっている。この導入容量は、おおよそ1万7千世帯の1年間の電気使用量に相当する。

両毛線新駅の
周辺開発について問う！



西田 智男
議員

問 県内では35年ぶりとなるJRの新駅が来春本市に開業となる予定である。新駅開業後のまちづくりのビジョンを聞きたい。

市長 新駅の持つポテンシャルを最大限に生かしながら、都市基盤整備や都市的土地利用を促進し、本市全体の活力を牽引するような民間資本を導入するなど、新たなまちづくりにつなげていく。

◆空き家対策

問 建築指導課に空き家対策担当が平成29年度新設されたが、専任の担当が設置されたことによる効果をどのように捉えているのか。また、空家等対策計画の策定状況について聞きたい。

都市建設部長

窓口を一本化したことにより、市民にとって相談しやすい環境が整うとともに各課との連携が迅速となり、さまざまな空き家問題の解決につながることを考えている。

なお、足利市空家等対策計画を平成29年度中に策定するため、庁内連絡会議を立ち上げ詳細な内容を検討している。



市長の福祉行政に対する
考え方を問う！



大島 綾
議員

問 市長2期目の福祉行政に対する考え方と、今後の取り組みについて聞きたい。

市長 今後の福祉行政は、「あれかこれか」を選択し、限られた財源を効率よく活用するとともに、将来の子供たちのためにもツケを残さない持続可能な財政運営をしていかなければならない。子供から高齢者まで全ての世代から足利に住んでよかったと言われるような、温かい市民がたくさんいるまちを築くため、その旗振り役として誠心誠意、全力で取り組んでいく。

◆がん教育

問 新中学校学習指導要領に、がんについても取り扱うことが明記されたが、本市の取り組みについて聞きたい。

教育長

本市では、小中学校の授業において、生活習慣病の原因や予防について扱う中で、がんについても取り上げ、グラフや写真などの具体的な資料を提示しながら、それぞれの発達段階に応じて指導している。より質の高い指導ができるよう、学校や医師会、関係機関との連携を図りながら、がん教育の充実に向けて取り組んでいく。

